



図書館サポーターズだより 明日に吹く風



日差しも強くなり、いよいよ夏本番ですね！長期休暇中、図書館でじっくり読書をするのはいかがでしょうか？今月も図書館サポーターがオススメの本をご紹介します。

～図書館サポーター推薦図書～



『脳男』：首藤瓜於 著 (913.6 || Sh99)

連続爆弾魔のアジトで見つかった謎の男、鈴木。彼の精神鑑定を依頼された医師・鷺谷真梨子は、事情聴取を進めるうちに鈴木の様子にだんだんと違和感を覚え始め、調査を進めるうちに彼の周りで不自然な事件が多発していることに気がつきます。彼はいったい何者なのか、鈴木 of 過去を探るうちに鷺谷は彼の本当の姿を知ることになる…。『脳男』というタイトルに一目ぼれしてしまいましたが、次になにが起こるかわからない先の読めない展開にぐぐっと引き込まれ、一気に読み終えてしまう 1 冊です。脳男とは一体どんな人物なのか。第 46 回江戸川乱歩賞受賞作で、生田斗真主演で映画化もされた本作品。皆さんにもぜひ読んで欲しいです。

(O・N)

『ぼくのマンガ人生』：手塚治虫 著 (726.1 || Te95)

タイトル、著者名の通り、漫画家・手塚治虫先生の人生について語られた本です。私自身がマンガ好き、ということで興味を持ったのですが、面白さがマンガという題材の枠だけに収まりません。

手塚治虫先生の話の合間に彼の兄妹や友人から寄せられた文章が挿入されていて、主観と客観の両方の視点から“手塚治虫”という人物を眺めることができます。中でも印象的だったのが、本人は子どものころいじめられていたと感じていたけれど、他から見れば「(手塚治虫先生が)色が違う存在」だっただけと言う話。なんだか幼い頃から突出した個性を持っていた、更に周囲に敏感だったであろう人柄がうかがえます。苛烈で、繊細で、弱く、学校でもマンガを描いていたため教師に怒られる日々。それでも戦争を生き延び、自分ができることに向き合い、生ききった手塚治虫先生だからこそ、作品に出る強いメッセージがあります。「生きる」ことのほんとうの強さを感じさせる一冊です。(Y・S)

『キャッチ!JR 福知山線事故がわたしに教えてくれたこと』：岡崎愛子 著 (916 || 048)

この本はほとんどの方がご存知の JR 福知山線事故のお話です。この事故をきっかけに当時同志社大学 2 年生だった岡崎愛子さんは首から下に麻痺が残り、車椅子ユーザーになってしまいました。わたしたちと同じ大学生で突然歩けなくなったという岡崎さん。事故当初は後悔や過去の自分の体と比較し苦しましますが、家族や友人など大勢の方からの支援・応援などにより徐々に物事を前向きにとらえ将来に目を向けるようになり、以前のように社会復帰するまでの葛藤や苦難を描いたお話です。とても感動でき、勇気をもらえる作品です。また身近なところに「幸せ」がたくさんあるということ、家族や友人・仲間の存在の大切さを読者に教えてくれる作品でもあります。勇気をもらえる言葉もあり、とても良い作品なので多くの方に読んでもらいたい一冊です。興味のある方はぜひ読んでみてください。(Y・T)

* 図書はメインカウンター脇にあります。ご利用ください。